

りなちゃんの福祉作文

日本女子大学附属高校 P N しお

りなちゃんは福祉についての作文がちよっぴり苦手だそうです。なぜなのでしょう？聞いてみました。「だって、なんかニセモノな気がするから」

そうなんですネ。さて、それはさておき物語を進めましょう。

りなちゃんが通う小学校では福祉についての作文を書きます。特に、りなちゃんのように小学三年生は低学年の部で一番最年長なため、受賞の確率が大いに見込めます。

りなちゃん、意気込みを教えてください。

「絶対、金賞を取りたい。じゃないと私は許されないから」

いい意気込みですね。頑張ってください。努力は必ず身を結びますからね。

まずは主題探しです。うーん、りなちゃん、早くも難航しているようです。なぜなら、りなちゃんの家族は特に病気にかかっているわけでもなく、医療従事者でもないからです。しかし、りなちゃんは諦めません。りなちゃんはお家に宿題として持ち帰り、考えることにしました。

「ママは自分のこと、健康だと思おう？」

「ねえ、りなは逆にママのこと、不健康だと思おうの？」

りなちゃんが言うに、時々りなちゃんママは娘に対しても自分以外の人が全て敵であるかのような目つきをするそうです。そうなるとりなちゃんは心のバリアを張るそう。

「これはママじゃない」と思わないとりなちゃんはやってられないんだって。困ったものですね、ママじゃないなんて思うなんて。

「正直、不健康だと思おう。表向きにはそう見えないけどママはこころの病気なんじゃないかって思うの。りな、ママがつらそうだから図書室でそういう本を見つけて読んだのね、そしたらママはゆっくり休むべきなんだってわかった」

そう言うと、りなちゃんママは言葉にならない言葉で叫びました。

あちゃちゃりなちゃんは肩を落としてしまいました。凹んでる時間なんてないよ！前向きに、ガンバレ！

今度は父にそのこと相談しました。すると父は、

「ママが落ち込んでるのは、りなとパパが頑張っていないからなんだよ！」

と言いました。あれ？りなちゃんは納得がいかないようです。

何かを考えこむようにしたりなちゃんは言葉を選びながら話しました。

「パパ、大事なことから目を逸らしているようにしか見えないよ」

あちゃりなちゃんは両親に逆らってしまいました。両親の言うことを聞けないなんて、ダメだぞ！でも大丈夫、その後、りなちゃんは諭されたようだから。「大人にな

「つたらわかる」と。何事も経験者から学ぶことが大事ですね！

その晩、りなちゃんはひとり、部屋にうずくまって考えたのだそう。どうすればぜんぶ良くなるかを。

うーん、素直になるところからはじめてみては？ そう思いますけどねえ。でも、りなちゃんは自分が合っていると信じて疑わないそうなのです。そんなもって、りなちゃんは素直じゃないから、福祉作文に対しても本気でこう思うそうなのです。

「福祉作文に出す賞金があるなら一人救えるのでは？」と。

しかしそんなりなちゃんも作文に対して意欲的に取り組めました。スゴいぞー！

また、りなちゃんは普段自分が満足できる出来のものをらせることはめずらしいそうなのですが、締切1日前、これはよいぞ、というものが出来上がったそうなのです。

そこから三ヶ月が経ちました。

結果を先に言うと、りなちゃんこと宮橋里奈の福祉作文は箸にも棒にも引っかけりませんでした。かなしいですね。りなちゃんにインタビューをしてみよ……おーっと、あの泣かない強いりなちゃんが涙を流しているではありませんか。そ、そんな……泣かないで、大丈夫だよりなちゃん。高学年の部もあるよ！ まだ続いているから頑張ろ

「私、この世界が嫌い。みんな大っ嫌い」

え、ええ？

「私はみんなのこと、嫌いになんてなりたくなかったのに平気で裏切る。ほんと、自分のことしか考えてない」

そ、そんなー！ 裏切るだなんて！ みんなりなちゃんのことを気にかけて

「でも私、諦めるつもりないから」

えー！ りなちゃんは何を企んでいるのでしょうか。

月日は流れ、小学三年生だったりなちゃんは中学三年生、そして、高校三年生になりました。

みんなはりなちゃんについて語るとき、決まって非の打ち所がなく、人間味がなく、完璧な人間だと答えます。でも、本当にそうなのでしょうか？ 真実を知るべく、約十年ぶりにインタビューをしました。

りなちゃん、将来は何になるの？

「何になるかなんて、わからない。だけど、一つずつ考えていることがある」
愛で人を救いたい、と。